

オウム対策住民協議会ニュース

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

監視活動ご苦労様です 監視は2階部分がターゲット

烏山地域のオウム真理教への監視活動も、今年で16年目となります。住民主体で監視活動が継続されている地域は、全国の住民協議会でも唯一烏山地域のみとなりました。オウム真理教と直接対峙し、互いの息づかいが聞こえる距離の監視活動は、烏山地域住民協議会の闘いの原点とも言えます。この活動なくして、住民協議会の活動を語ることは出来ない、と言っても過言ではありません。住民の真剣な眼差しは、闘う相手オウム真理教にとっては、欺瞞性に満ちた自らの活動を見透かされているようで、最も嫌がられる活動です。とは言えこの活動の継続には、様々な困難や障害がつきまとい、その対策も必要となつています。会員の高齢化による身体の変調や、厳しい気象条件への対処、闘う相手との直接的なやり取りなども含め、課題は少なくありません。そこで監視活動に協力されている皆

さんに、今回監視方法も含め改めて確認することがあります。それは、オウム真理教(ひかりの輪) 信者が現在どの部分に居住しているかという最も基本的なことです。ひかりの輪居住信者は現在数名と言われ、住んでいるのは2階部分のみとなっています。3階から5階(横断幕が設置されている)は、マンション住民の居住するスペースとなっております。したがって私たちの監視対象は、2階部分となります。さらにひかりの輪信者の出入り口は、マンション左端の出入り口ではなく、右端にあるグレーのドアとなっています。今年のご注意ください。今年の暑さはこれから続くようです。体調管理に気を付けて、無理をすることだけは避けていただき、体調がすぐれない場合は、途中帰宅や欠席するなどの決断をお願いいたします。継続は力です。無理することなく、自然体でオウム真理教と闘い続けましょう。



ひかりの輪信者監視対象の2階部分



ひかりの輪信者専用出入口

第33回 抗議デモ・学習会

11月12日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター前広場
- 学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

講演 「ひかりの輪の本質とカルト性について」

上祐史浩はオウム真理教アレフから脱会、ひかりの輪を設立し、足掛け10年近くとなるが、上祐の人間性が反映してか、アレフと比べて、ひかりの輪の本質が見えにくく分かりづらい。今回の講演は、オウム真理教の脱会信者や、現役信者の実情にも詳しい滝本太郎弁護士を招き、アレフ脱会以降の上祐の精神的な内部、ひかりの輪の活動の現状や欺瞞性についてお話していただきます。

講師：滝本太郎氏(弁護士)

最近の新聞等は、指定暴力団「山口組」と分裂した神戸山口組の抗争事件発生が連日報道され、関係事務所周辺の住民は抗争事件に巻き込まれるのではないかと不安感、恐怖感を抱きながら生活している現状です。翻って、私達の湖南市平松区では表面的には平穏無事ですが、オウム真理教関係施設が存在し、潜在的な不安感を抱きながら日常生活をしているのではないのでしょうか。今から21年前、オウム真理教は東京霞が関の地下鉄車内で化学兵器のサリンを散布し死者13名、負傷者6,286名の世界にも類を見ない大規模テロを起こしました。現在も後遺症に苦しんでいる被害者も多数おられます。公刊資料によると、オウム真理教の麻原彰晃こと松本智津夫死刑囚を未だに尊師と崇め主流派「アレフ」と「ひかりの輪」に分裂したものの国内に約1600名の信者がいるとみられ、その活動拠点は、15都道府県に32カ所を有しており、滋賀県内では甲賀市水口町に水口施設と湖南市平松区美松台に甲西施設が所在しています。さて、私達が表面的に安心して生活している平松区の住民は、甲西施設の居住者「信者」についてどのように認識されているのでしょうか。先日、平松区では「オウム対策に関するアンケート調査」を実施しました。調査結果は、全276世帯から99世帯の回答をいただき、内66世帯が不安に感じているとの回答でした。施設の居住者は、主流派の「アレフ」最高幹部の二ノ宮正悟師他3名が確認され、全国各地の道場、支部に赴き修行や組織運営に携わっていると思われまふ。公安当局は、団体規制法に基づき甲西施設に立入検査を行い、施設内部に麻原尊師の写真を掲示した祭壇を確認しており、教義を信奉する各種活動に変化は見られなかつ今後とも観察処分の更新を行うものと思われまふ。現在の法律では、教団を解散、消滅させることは出来ません。しかしながら、これ以上彼らの活動を黙認することは、将来的に地域の安全安心が保証されることにはなりません。暴力団の抗争事件は、現在進行形であり周辺住民の恐怖感や不安感は現実のものです。世界各地で発生している「テロ」も現実の事件です。直接的な被害がなければ他人事のように

に考えがちですが、潜在的な不安感を取り除くためには、地域住民が連携して粘り強く活動していくことが大切だと思います。平松区環境整備オウム対策委員会では、平成13年からオウム施設前での抗議集会や署名活動、法務省への要請行動を継続して粘り強く行ってきました。「無関心」をどのように克服するか「地下鉄サリン事件の風化」を考えながら、地域住民の安心安全のために、行政等への要請活動、他団体との連携によるオウム対策を継続していきたいと思ひます。



平松区アレフ施設

追伸:

猛暑続きですが、皆さんお元気でいらっしゃいますでしょうか。残念なお知らせですが、二ノ宮一派により滋賀で3カ所目のアレフ施設がお隣の甲賀市信楽町に出来てしまいました。場所は湖南市から車で40分以上かかり、コンビニひとつない集落の大きな一軒家です。かなりの田舎です。なぜか、産経新聞ウェブニュースとテレビ東京での報道でしかこの件について取り上げていませんでしたので、滋賀県民のほとんどがこの件について知らないと思ひます。この件を含めてお隣の甲賀市柏貴区オウム対策委員会の方に最近の水口施設での状況を投稿していただくようお願いしてあります。来月になるかと思ひますがその時はよろしくお願ひいたします。

新樹苑盆踊り大会で募金活動

梅雨が明けた7月30日、雲ひとつない青空のもと、新樹苑盆踊り大会会場で募金活動を行いました。とにかく暑い…暑さに弱い私たちは、少々バテ気味になりながら頑張りました。毎回ご協力いただいている、八幡山地域の長島さんが、今年も皆さまに呼びかけていただきたくさんの募金が集まりました。度々のご協力に感謝の気持ちでいっぱいです。尚、今回は社会福祉協議会上北沢地区のテントの一角をお借りしての募金活動でしたが、ご協力に感謝申し上げます。次回の募金活動も頑張りたいと思ひます。

給田納涼盆踊り会場で募金活動

8月9日給田納涼盆踊り会場で募金活動を行いました。今年も手作り感いっぱいのアットホームな演出が郷愁を誘い、心和む盆踊りでした。会場では主催者の方から、何度も「オウム真理教反対の募金活動をしています」とマイクで呼びかけていただいたことで、住民の皆さまからは、気持ち良く募金に応じてくれる姿が見られました。以前は住民協議会の活動にも協力いただいた方が、車イスで近づき募金をしてくれました。「こんな身体になり、今は募金するくらいしかできませんが、頑張ってください」と声を掛けてくれました。病に倒れても私たちの活動を見守ってくれる気持ちに感謝です。オウム真理教解散・解体に向け、活動して行くことに新たな力をいただいた思いでした。皆さまありがとうございました。



※「ひかりの輪の謎に迫る」は今月号はお休みです

住民協議会活動報告

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 7月22日(金) 実行委員会 | 8月3日(水) 芦花公園駅前盆踊りで募金活動 |
| 7月23日(土) 千駄山ふれあい祭りで募金活動 | 8月3日(水) 事務局会議 |
| 7月26日(火) 夏休み親と子の映画会で募金活動 | 8月4日(木)～6日(土) からすやま夏まつりで募金活動 |
| 7月30日(土) 新樹苑盆踊り大会で募金活動 | 8月9日(火)・10日(水) 給田納涼盆踊りで募金活動 |

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。